

平成 7 年度 研究サマリー

研究会名称	城東地域の腎臓病の病態と治療研究会	
代表者所属	医療法人社団韮生会メディカルプラザ 篠崎駅西口	
代表者氏名	佐中 孜	
研究方法・結果 2025 年 12 月に透析会誌において公表された「わが国の慢性透析療法の現況」によれば、2024 年の新規透析導入患者数は 36,404 人であり、2023 年より 2,360 人の減と集計されている。 確かに慢性腎臓病に対する治療薬の進歩は糖尿病治療薬、心不全治療薬、免疫異常治療薬の登場で明らかなように、特筆すべきものがあると言える。このことは原疾患としての糖尿病性腎症、慢性腎炎の減少傾向などからも伺い知ることができる。 しかし、その一方で、腎硬化症を原因とする透析療法導入患者数は 2019 年に慢性糸球体腎炎に代わって第 2 位となって以降も持続的、経年的な増加が目立つ感は否めない。 このような事実に対して、本研究会の代表であり、本報告書の筆者である佐中 孜の 2023 年から 2 年間に 300 余名を抱えた外来では予測不能のバイアスがかかっていたとしても透析療法導入患者は糖尿病腎症の 1 名にとどまっていたという事実は必ずしも一方的に否定できないと考えている。 このような事実が何処に由来するのかについては不明と言わざるを得ないが、少なくとも筆者が心がけていることはガイドラインが示すところの低蛋白食ではないことも事実であり、むしろ摂取を奨励する場面さえあることも事実である。このような状況の中で、常に共通することは抗酸化食、高ビタミン食の摂取奨励であり、AGEs 低減を目指す活性炭吸着療法の実行である。抗酸化食、高ビタミン食の摂取奨励、AGEs 吸収低減のための薬剤処方、サプリメント紹介だけでなく、必要な日常生活の励行を目的としたセミナーの実施を行った。 2026 年においては WEB を中心としたセミナーの配信を計画している。 併せて、慢性腎臓病（CKD）患者に対する抗酸化、抗 AGEs 療法による Stop 慢性腎臓病効果の可能性についての探索的臨床研究を継続している。		
研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等） ①健康 365 2026 年 2 月号（2025 年 12 月 16 日発売） Stop 慢性腎臓病！佐中医師考案「CKD 分子栄養療法」の 2 大ポイント P97 ②NEWS LETTER Vol.01 2025.08 Stop 慢性腎臓病へのサナカの秘策はこれだ！！ CKD 分子栄養療法 ③第 29 回日本病態栄養学会年次学術集会 P-082（2026 年 2 月 1 日） 2 型糖尿病症例にて、血中亜鉛値は BMI 値と負の、血中銅値は BMI 値と正の相関傾向がある。 メディカルプラザ篠崎駅西口 三村 祐子		